

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 10月 8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3494600046		
法人名	社会福祉法人 神寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり苑		
所在地	広島県神石郡神石高原町福永1501-2 (電話) 0847-87-0177		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3494600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3494600046-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様が健康で自己肯定しながら安心して生活できる環境を提供しています。認知症高齢者にとって脱水や便秘・腹痛・風邪など、不快な体の不調を解消していく事に努め、気分良く過ごしていただけることを願っています。そのために、地域の他職種としっかり連携をとっています。地域の医療機関が終末期通院困難な方のフォローをして下さり、とても心強く思っています。

又、住み慣れた神石で地域の行事に参加したり、地域の方の協力をお願いして苑内行事をしたり、食事作りのお手伝いをしていただくなど、利用者様ひとりひとりの力をおおいに発揮していただきながら、笑いのある暮らしを皆で作っています。ご家族様との交流もとても大切と考え、日々の様子についてお便りしたり、電話や面会時に報告させてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この地域は元来つながりが強い地域であり、グループホームも馴染みの場所となっている。自立支援での排泄の意識が高いため、すべての入居者がトイレにて排泄を行っており寝たきりにしない介助が出来ている。このため布パンツの方も多くおられる。食事は3食とも手作りにて提供され、量と品数にこだわり楽しみのある食事となっている。季節ごとの行事でおはぎや、柏餅作りも利用者と一緒に作ることで喜ばれている。

また、防災に対する意識が高く、万が一に備えた体制を整えるため年に5回訓練を計画している。

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	常に振り返りが出来るよう、理念を目的のつく所に貼り出し、時に皆で復唱している。利用者主体の生活を送っていただけるよう、情報を共有しケアプランにそってサービス提供している。	理念は2カ所のよく見える場所に掲示している。理念をもとにユニットで目標をたて、個人目標に繋げている。個人目標は廊下のよく見える所に掲示しており職員はもちろん、ご家族にも共有する事で理念に基づいたケアが出来るように励まし合いながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元の保育所や小学校、地域の行事に招待して頂き参加している。行きつけの理容院・美容院が利用できるように送迎している。受診時には顔見知りの方との会話が弾んでいる。	地域で災害があった際には助けられる関係が構築できている。このため、地域の清掃活動にも職員が参加することで関係性が保たれている。また、入居前からの馴染みの理容院、美容院との関係も途切れないようにできる限り交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	学習の一環としての実習生を積極的に受け入れるようにしている。老人会等からの要請があれば集まりに参加して施設の概要や認知症についての勉強会を一緒に行ったり、施設見学の依頼にも気軽に応じている。又キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域において、認知症サポーター養成講座をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で苑での日常を報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。大きな行事には運営推進委員の方々が参加して下さるので、その場で率直な意見を得られ、次の行事に反映出来る様になっている。	運営推進会議には、自治振興会会長、行政担当課、支所、入居者代表、家族代表が参加されており、報告はもちろん、活発な意見交換を行っている。会議の中で出てきた意見で、下肢筋力の向上のために検討し玄関の階段を利用して身体機能の向上に繋げた事例もある。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町・地域包括センター等の指導、助言を得てサービスの向上に努めている。町よりヒアリング、「ようこそ町長室へ」に参加するよう町からのアプローチもある。認定更新時の聞き取り時には、ご本人やご家族の要望や困っている事などを伝えて情報を共有できるようにしている。	近所に神石高原町の支所があることで、日々の交流で担当者と馴染みの関係が構築している。この為、困り事があればすぐに出向き相談できる関係を作っている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年3回は身体拘束廃止研修会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図っている。身体拘束をしない対応の仕方を都度話合い適切な支援について検討し、安全面に配慮しながら散歩に付き添い、鍵を掛けることなく自由な暮らしを支援している。	身体拘束をしないケアを実践するため、身体拘束廃止研修会を年に3回実施している。転倒の危険性がある方に対しては、低床ベットや、マットを利用することで、転倒の危険性を低くし身体拘束にならないケアに努めている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し、虐待とは何か等、法を学ぶ時間を設けている。町から勧められる研修への参加と、参加後の研修報告を行ない意見交換を行なう。管理者は職員の様子に注意を払い、必要なメンタルケア支援を行なう。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等への参加・書物での勉強等で学ぶ機会を多く持てるようにして職員個々が概要を理解できるようにしている。個々で必要となった場合には関係者との話し合いを持つようにする。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	苑でのケアの取り組みや考え方を説明して、ご本人やご家族の意見要望を聞いて納得していただけるまで時間をかけて話を聞いている。解約事項についても細かく説明を行い、不安をなくすように心がけている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方々との日々の会話の中から要望や心情を察しサービス提供し、ご家族に日頃の状況を報告して意見をもったり、ご家族からの要望も聞いて、職員間で話し合い改善できるようにしている。	入居者の意見は普段の会話から聞き、ご家族の意見は面会の際に意見を聞いたり、ケアプランの更新時に意見を聞くようにしている。意見の中には、退院後布パンツからリハビリパンツになった入居者に対して、布パンツに戻してくださいとの要望に、職員がケアを検討し取り組んだ事例もある。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のみでの判断で済まされる事項については、会議やミーティング・日々のケアの中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践するようにしている。経費が必要な事項や大幅な改善が必要な場合は、代表者に報告・相談して決裁をもらう。	職員の意見は毎朝の朝礼時や月に1回ある会議を通して意見交換をしている。実際に反映した事ではリハビリの定着に悩んでいた事を議題に挙げ、皆で取り組める仕組みに改善した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。また休憩時間の確保、時間外手当の支給をする。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して現場で常に助言・援助を行っている。成功体験や達成感がもてるよう評価していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	郡のケアマネ協議会やその他の会議等で他の施設の管理者・ケアマネ等と情報交換を行い、新しい着眼点を見出しサービスの質の向上を目指している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談時には、リラックスできる雰囲気づくりに努め、ご本人の本音が引き出せるよう、礼儀正しく、誠意をもって面談している。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の話したい事や困っている事をよく聴いて受容し、これからの生活について相談していく。苑で出来る事を具体的に提示して両者で確認しておく。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>早期対応が必要な場合には担当ケアマネとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>自分の存在価値を認められるよう、出来る事を引き出し日々の生活において出番をつくる。又人生の先輩として色々な場面で教えや助言を乞う。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃より生活の様子、体調について細かく伝えることにより本人とご家族との会話のきっかけ作りに努めている。部屋でゆっくり過ごしてもらえる雰囲気を作り、部屋の片づけ、衣類の点検などをお願いしている。受診の付き添いをお願いしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>昔からの馴染みの美容院・理容院に行ける様に対応している。知人・友人の来訪を快く受け入れゆっくと過ごしてもらえるようにしている。</p>	<p>馴染みの人や場所の関係継続の支援のために、グループホームの行事の際には地域の方に来ていただいたり、地域の行事にはなるべく参加するようにしている。また、かかりつけ医に継続して受診することで、馴染みの方と出会うように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対してご家族にその後の様子などを聞くようにしている。施設との連携も取り、今までの生活の流れに沿った介護を受けられるように引き継ぎを行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して時間や体調によってトイレやベッド介助等を行っている。その日の気分や体調によっても臨機応変に対応出来るようにしている。(例：気分転換のドライブや散歩)	日々の生活の会話の中で、意向を把握するようにしている。具体的には、入浴に関して1人でゆっくり入浴したいとの希望がある方には、希望に沿うように改善をした事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族やケアマネからの情報収集を行い、職員への周知徹底により現在の状況だけにとらわれず、築いてきた事や頑張りを評価し尊厳をもって支援が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事形態を検討し、実行するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のもつ能力をしっかりと見て、常にご家族や職員で話し合い介護計画に反映している。まず、参加することに意義を持たせ、本人の持っている力が発揮できる喜びを共有して、意欲へとつながる様に支援している。	日々のケアを通じて、問題点や、ニーズの把握を行った上で専門職の意見を取り入れケアマネジャーがケアプランの原案を作成している。それをもとにカンファレンスを行い入居者に即したプランとなっている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の実践・様子、食事、排泄、水分量、バイタル、来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通し介護計画に沿っているかを検討している。又見直しが必要であれば介護計画の修正を行なっている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診について家族や都合のつかない家族に対して受診送迎・付き添いを行ない、緊急時の受診も対応出来るようにしている。自宅への外出や外泊も自由に行なっている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の慰問が年に数回ある為、担当地区だった方の生活ぶりを見て頂いている。出掛けられない方に対する散髪を昔からの馴染みの理美容院にお願いして出向いてもらっている。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診診断</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれのかかりつけ医に継続して受診出来る様に支援している。家族対応であっても日々の体調が良く分かる様に記録を持参してもらい医師に情報が伝わる様になっている。受診結果は家族から細かく聞き、検査結果や注意事項は病院から苑に連絡をもらえるようにしている。受診困難及び終末期の方は訪問診療をしてもらっている。	基本的には、入居前のかかりつけ医との関係が途切れないように主治医を変えることなく支援をしている。専門医や定期的な受診は、ほとんどグループホームの職員が対応している。緊急時には、管理者に報告し指示を仰ぐことで適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・体調観察を記録して変化ある時には、報告して助言・対応を受けている。体調悪化早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて実践している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診するかかりつけ医と緊急時に受診する病院を家族と話し合い決めて対応している。入院時にはアセスメントシートで病院に情報提供を行っている。入院時には家族から体調の様子を聞いて、苑での対応が可能な状態であればなるべく早い退院ができるように、病院スタッフからも情報をもらっている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。状態を見ながら併設の特養への申し込みを提案、重度化や医療面での対応が必要となった場合に本人や家族が不安とならないように支援している。体調変化毎に再度説明を行い、家族の意向を都度聞くようしている。	入居の段階から、終末期に向けた説明を行い、状態に応じてその都度意向の把握を行うようにしている。看取り時には協力医と連携し、開所以来4件の看取りを行った実績がある。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	状態観察の視点、応急処置などについて勉強会や日頃のミーティングで話し合い、統一できるようにしている。急変時・緊急時には夜間であっても看護師や管理者に連絡を取れるようにしている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年5回利用者と共に避難訓練を行っている。2回は消防署の協力を得て避難訓練・避難経路・消火器の使い方訓練を行っている。近隣の方々へ参加依頼し救援方法なども訓練に取り入れている。	マニュアルをもとに年に3回防災訓練を行い、うち1回は夜間想定訓練を行っている。今後防犯訓練を予定しており、不審者が来た際の対応を実施することになっている。また、ハザードマップでは、土砂災害が想定される地域にあるので、消防団と一緒に避難経路を確認している。	



自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々のプライバシーに関する事柄については皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。日頃の会話・声掛けに対しても尊厳ある対応を心掛けている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて人目に触れない事を徹底している。	入居者のプライバシーに関する情報交換は、声の大きさ等に配慮しながら行っている。トイレ等の声かけには、入居者の側へ行き、声かけをしている。入居者の呼び方には特に注意しており、必ず名字で呼ぶようにし、尊厳のあるケアにつながるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体に目を配り、声掛けを多くして日頃と違う様子や動作からその人の思いや要望を読み取れるようにしている。本人の伝えきれない気持ちを代弁する事で安心感を持ってもらい、自信へとつながるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	気分によって1日に何度も散歩に出掛ける方や買物に出掛けたい方への付き添いを行っている。「家に帰らんといいけん。」と混乱気味に言われる方に対しては、自宅までドライブしたり、一緒に散歩し気分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪に行きたいとの声がある時には対応するようにしている。各担当者が衣類整理を一緒に行い、いつも清潔な衣類が身につけられるようにする。入浴時には、一緒に衣類を選び、気分転換につながるような変化を楽しめるように支援している。又起床後髭そりや整髪を行なうよう誘導し、身なりを整えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備のにおい・香などから今日の献立の話しながら食事への意欲が持てるように働きかけている。摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へとつなげる。話をしながら楽しく食事ができるようにする。テーブル拭き・配膳・お茶入れ・食器洗いなどそれぞれに合った手伝いが出来るようにしている。	食事は3食手作りにて提供されている。テーブル拭きなど、出来る事はしていただくことで準備の段階から関わっていただいている。また、季節ごとにおやつを手作りする行事を企画し、おはぎや、柏餅等を一緒に作り、楽しみのある生活となるように工夫されている。	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>それぞれに合った食事形態を工夫したり、病気によって禁止食材の代替えを行ったり自助具使用によって出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。食事摂取量・水分量のトータルを毎日記入して過不足とならないように配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、義歯洗浄剤に浸けておく。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレへの声掛けを定時・食事前に行っている。落ち着いて食事できるように食前にはできるだけトイレに行ってもらい、夜間は巡回時に個々の排泄パターンに合わせた声掛けを行ないトイレ介助を行う。紙オムツ使用の方であっても排泄の要求ある時にはトイレ介助する。</p>	<p>入居者全員がトイレにて排泄を行っている。歩けなくなったとしても座ることができれば、トイレにて座っていたりできるように会議等で話し合いながら指導している。退院したときにリハビリパンツを使用していた方も布パンツに改善した事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防と水分補給を兼ねて寝る前と朝一番に牛乳を提供している。毎日のラジオ体操でしっかり体を動かすようにし、外に出て散歩を楽しんだり、寒い時には廊下を皆で一斉に歩いて運動をしている。毎日の排便確認を行って、2～3日排便ない時には、下剤使用で排便を促すようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週3回入浴できるように計画している。その日に入りたい方や前日に受診で入れなかった方などは、調整して週3回の入浴を確保している。介助が必要な方や目を離せない方は、2人で入浴介助をしている。</p>	<p>2日に1回は入浴できるようにしている。その人その人に合わせ湯温や入浴時間を調整し、入浴を楽しむことができる支援をしている。また、入居者の肌状態に合わせて石鹸の使用量にも配慮したケアを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(東ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>昼食後や入浴後などに横になりたい方には休んでいただき、その日の体調や眠い時にベッドで横になれるようにしている。皆さんのいるところの方が安心できる人もいるため自由にソファでも休んでいただいている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の説明書は個人ファイルに閉じて職員がいつでも見られるようにしている。医師の指示のもと下剤など調整出来る薬は状態を見ながら調整して服薬してもらっている。服薬の確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>個々の得意分野での手伝いや手仕事を任せて行ってもらっている。責任感から体力的・精神的な負担とならないように支援している。嗜好品としてお菓子など間食の持ち込みがある方には、適時提供している。季節毎の行事や外出事を計画して気分転換や楽しみが増えるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>苑外への散歩は出たい時に出来るようにしており、必ず付添いをしている。又希望がある場合、ドライブにも出かけている。</p>	<p>気候の良いときには、庭に出てレクリエーションやお散歩をする事で、外の空気を感じれるようにしている。季節に咲く花を見るためにドライブツアーを企画し随時お連れしている。また、家族の協力のもと連絡調整を行い、お墓参りや自宅に帰りご馳走を食べたりとの支援も行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>トラブルのないよう多額の現金は持ってもらわないようお願いをしているが、自分で管理出来る方には1万円以下の現金を持ってもらい、買物時には自分で払ってもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	予めご家族に状況説明をして思う時に電話で話をしてもらっている。家族や子供さんからの手紙や荷物など届いた時には本人がお礼の電話が出来るように対応している。家族などに暑中見舞いや年賀状を一人1枚ずつ出せるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にいつもの場所にいつもの物があるようにして、戸惑うことのないように配慮し、季節毎の飾り物やレクで季節の歌を唄ったりして季節が認識できる工夫をしている。適切な温湿度になるよう空調調節を行い、衣類の調節の声掛けや支援をしながら、快適に過ごせる様にしている。	季節ごとの壁紙の飾り付けのために、折り紙や貼り絵、塗り絵を入居者と一緒に作成している。常に日中は明るい空間を意識し、天候の悪い時は照明を工夫したり、音にも配慮することで不快にならないよう居心地良く過ごせる空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はリビングのソファでくつろぎながらテレビを見たり、レクをしたりがほとんどで、ソファで横になりたい方には横になって休めるように配慮している。昼食後はベッドで横になりたい方や気分によっては眠りたい方には自室で休めるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物を持ちこんでもらい、安らぎの居住空間となるよう配慮し、部屋の片づけも職員が勝手にしてしまうのではなく、一緒になって片付ける事で安心感を持ってもらえるように支援をしている。	ベッド、照明、カーテンは備え付けてあり、押し入れはあるがタンス等はありません。居室には、危険物以外は持ち込み自由であり、入居者の中には、冷蔵庫や釣具を持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や共有スペースでの行動は自由に行ってもらっている。洗濯物干し・たたみ・食器洗い・掃除・配膳など個々に合った出来る事をしてもらっている。各ユニットへの出入りも自由にしてあるので、思うように行動出来、話をしてほしい人の所へ行ってもらっている。		

V アウトカム項目( 東ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々のケアを常に意識して、理念も意識して仕事ができるように、目のつく所へ掲示している。情報の共有のもと職員一同でその人らしさを維持した生活をして頂くための理念に沿った改善・取り組みケアプランにそったサービス提供をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育所・小学校・地域の行事に積極的に参加している。又、面会者及び地域住民にいつでも面会出来る事を伝える。昔からの馴染みの理容院・美容院が利用できるよう調整送迎している。受診時には、近所だった方や顔見知りの方との会話が弾んでいる。※現在コロナ対策で中止		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	学習の一環としての実習生を積極的に受け入れるようにしている。老人会等からの要請があれば集まりに参加して施設の概要や認知症についての勉強会を一緒に行ったり、施設見学の依頼にも気軽に応じている。又キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域において、認知症サポーター養成講座をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設・入居者・行事状況を報告し、業務内容の改善に努め、会議の意見を反映したサービスの向上に努めている。大きな行事には運営推進委員の方々が参加して下さるので、その場での率直な意見を得られ、次の行事に反映できるようにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町・地域包括センター等の指導、助言を得てサービスの向上に努めている。町よりヒアリング、「ようこそ町長室へ」に参加するよう町からのアプローチもある。認定更新時の聞き取り時には、ご本人やご家族の要望や困っている事などを伝えて情報を共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年3回は身体拘束廃止研修会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解の徹底を図っている。身体拘束をしない対応の仕方を都度話し合い適切な支援について検討し、安全面に配慮しながら散歩に付き添い、鍵を掛けることなく自由な暮らしを支援している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し、年1回苑内研修を実施し虐待とは何か等、法を学ぶ時間を設けている。町から勧められる研修への参加と、参加後の研修報告を行ない意見交換を行なう。管理者は職員の様子に注意を払い、必要なメンタルケア支援を行なう。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等への参加・書物での勉強等で学ぶ機会を多く持てるようにして職員個々が概要を理解できるようにしている。個々で必要となった場合には関係者との話し合いを持つようにする。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	苑でのケアの取り組みや考え方を説明して、ご本人やご家族の意見要望を聞いて納得していただけるまで時間をかけて話を聞いている。解約事項についても細かく説明を行い、不安をなくすように心がけている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の方々との日々の会話の中から要望や心情を察しサービス提供し、ご家族に日頃の状況を報告して意見をもらったり、ご家族からの要望も聞いて、職員間で話し合い改善できるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のみでの判断で済まされる事項については、会議やミーティング・日々のケアの中で意見や提案を聞き、話し合いをした上で決定して実践するようにしている。経費が必要な事項や大幅な改善が必要な場合は、代表者に報告・相談して決裁をもらう。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。職員が興味や勉強意識が強い内容の研修にも参加できるようにしている。また休憩時間の確保、時間外手当の支給をする。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員のレベルや介護意欲に応じた外部研修を受講できるように計画を立てている。新人職員には管理者、リーダーが介護の方法、精神的ケア等指導して現場で常に助言・援助を行っている。管理者も気軽に相談できるようにし、適時助言を行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	郡のケアマネ協議会（現神石郡ケアネットワーク）やその他の会議等で他の施設の管理者・ケアマネ等と情報交換を行い、新しい着眼点を見出しサービスの質の向上を目指している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談時には、笑顔での話掛けを行わない、リラックスできる雰囲気づくりに努め、会話の中から本人の本音が引き出せるよう、礼儀正しく、誠意をもって面談している。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の話したい事や困っている事をよく聴いて受容し、これからの生活について相談していく。苑で出来る事を具体的に提示して両者で確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	早期対応が必要な場合には担当ケアマネとの連携を取り、利用可能なサービスへつなげられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自分でできる事はしてもらおう(要見守)。又、職員と協力して家事等をする。生活の中での自分に合った仕事・手伝いを強制ではなく、すすんでできるような取組や雰囲気作りを行っている。又人生の先輩として色々な場面で教えや助言を乞う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃より生活の様子、体調について細かく伝えることにより本人とご家族との会話のきっかけ作りに努めている。部屋でゆっくり過ごしてもらええる雰囲気を作り、部屋の片づけ、衣類の点検などをお願いしている。受診の付き添いをお願いしている。※現在面会はテラスでガラス越し対応		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの馴染みの美容院・理容院に行ける様に対応している。かかりつけ医の変更は出来る限りしないで通院できるように対応している。知人・友人の来訪を快く受け入れゆっくりと過ごしてもらええるようにしている。※現在コロナ対策で中止。受診は受診時間を変更し他の患者と合わないようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がそれぞれの個性を把握して個性を生かす働きかけを行い、輪が保てるように調整を行っている。みんなで楽しく話したり、利用者同士の会話が広がる様に職員も一緒に入って雑談や話を聞いたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた方に対してご家族にその後の様子などを聞くようにしている。施設との連携を取り、今までの生活の流れに沿った介護を受けられるように引き継ぎを行っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で要望に対応したり、個々の生活パターンを把握して時間や体調によってトイレやベッド介助等を行っている。その日の気分や体調によっても臨機応変に対応出来るようにしている。（例：気分転換のドライブや散歩、食事時間・形態、入浴等の変更）		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人家族やケアマネのみならず親戚・知人・地域住民からの情報収集を行い、職員への周知徹底により現在の状況だけにとらわれず、築いてきた事や頑張りを評価し尊厳をもって支援が行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体の調子や表情を観察して、その日の過ごし方や食事時間及び形態を検討し、実行するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	少しでも自分でできる能力があれば、その能力を発揮できるように、常にご家族や職員で話し合い介護計画に反映している。まず、参加することに意義を持たせ、少しずつでも出来るようになる喜びを共有して意欲へとつながる様に支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の実践・様子、食事、排泄、水分量、バイタル、来訪状況などを個別記録に記入して、職員それぞれが常に目を通し介護計画に沿っているかを検討している。又見直しが必要であれば介護計画の修正を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	受診について遠方家族や都合のつかない家族に対しての受診送迎・付き添いを行っています。緊急時の受診も対応出来るようにしています。自宅へのドライブに外出や外泊も家族の方や苑で対応し自由にしてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の慰問が年に数回ある為、担当地区だった方の生活ぶりを見て頂いている。出掛けられない方に対しての散髪を昔からの馴染みの理美容院にお願いして出向いてもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれのかかりつけ医に継続して受診出来る様に支援している。家族対応であっても日々の体調が良く分かる様に記録を持参してもらい医師に情報が伝わる様になっている。受診結果は家族から細かく聞き、検査結果や注意事項は病院から苑に連絡をもらえるようにしている。受診困難及び終末期の方は訪問診療をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日のバイタルチェック・体調観察を記録して変化ある時には、報告して助言・対応を受けている。体調悪化早期発見につながる変化の気づきなどのアドバイスを常時受けて実践している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診するかかりつけ医と緊急時に受診する病院を家族と話し合い決めて対応している。入院時にはアセスメントシートで病院に情報提供を行っている。入院中には家族から体調の様子を聞いて、苑での対応が可能な状態であればなるべく早い退院ができるように助言を行い、病院スタッフからも情報もらっている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化した場合の説明をおこなっている。状態を見ながら併設の特養への申し込みもしてもらい、重度化や医療面での対応が必要となった場合に本人や家族が不安とならないように支援している。体調変化毎に再度説明を行い、家族の意向を都度聞くようしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	状態観察の視点、応急処置などについて勉強会(心肺蘇生法講習)や日頃のミーティングで話し合い、統一した対応ができるようにしている。急変時・緊急時には夜間であっても看護師・管理者に連絡を取れるようにしている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年5回利用者と共に火災は年3回、土砂災害は年1回、防犯は1回で避難訓練を実施している。消防署の協力を得て避難訓練及び消火器の使い方等訓練を行っている。近隣の方々へ参加依頼し救援方法などの確認も訓練に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々のプライバシーに関する事柄については皆さんのいる場所では聞いたり、話したりしないように徹底している。日頃の会話・声掛けに対しても尊厳ある対応を心掛けている。着替えやトイレの介助を行う際には、部屋の戸を閉めて人目に触れない事を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体に目を配り、声掛けを多くして日頃と違う様子や動作からその人の思いや要望を読み取れるように指導している。本人の伝えきれない気持ちを代弁する事で安心感を持ってもらい、自信へとつながるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	帰宅願望や外出等の希望があれば、臨機応変に当日の職員で相談し、自宅への送迎等を実施している。また夜間の睡眠具合での生活の変化にも昼夜逆転にならない程度に昼寝や仮眠をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪に行きたいとの声がある時には出来るだけその日に対応するようにしている。各担当者が衣類整理を一緒に行い、いつも清潔な衣類が身につけられるようにする。入浴時には、一緒に衣類を選び同じものを順番に繰り返して着るのでなく、気分転換につながるような変化を持たせるように支援している。又起床後髭そりや整髪を行なうよう誘導し、身なりを整えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備のにおい・香などから献立の話をしながらか食事への意欲が持てるように働きかけ、摂取状況や食べ方などを観察してより良い処遇へつなげる。話をしながら楽しく食事ができるようにする。テーブル拭き・食材のカット・盛付・配膳及び下膳・お茶入れ・食器洗いなど各自の能力に合った手伝いが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	それぞれに合った食事形態を工夫したり、病気によって禁止食材の代替えを行ったり自助具使用や食べ方・体勢の見直し等によって出来るだけ自分で食べてもらえるように支援している。食事摂取量・水分量のトータルを毎日記入して不足とならないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。夕食後には職員が必ず付添い丁寧に磨いた後、ポリドントに浸けておく。口腔内の状態も歯磨き時に点検するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は定時・食事前後や排泄リズムに合わせたトイレ誘導を行う。日誌にも排泄の状況を記載し検討する。又、排泄の意識を持つように声掛けしている。落ち着いて食事ができるように食前には出来るだけトイレに行ってもらう。歩行難の方・紙オムツ使用の方であっても排泄の要求時には、トイレに座っての排泄を援助している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防と水分補給を兼ねて寝る前と朝一番に牛乳を提供。毎日のラジオ体操でしっかり体を動かすようにしています。天気が良い日には外に出て散歩を楽しんだり、テラスでの運動をしています。毎日の排便確認を行って、2～3日排便ない時には、水分の追加・適度な運動で自然排便を試みて、4～5日で下剤使用し排便を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回は入浴できるように入浴日を分けている。その日に入りたい方や前日に受診で入れなかった方などは調整し入浴する。介助が必要・目を離せない方は場合は2人で入浴介助をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後や入浴後などに横になり たい方には都度対応している。そ の日の体調によっては眠い時に ベッドで横になれるようにして いる。皆さんのいるところの方 が安心できる人もいるため自由 にソファーでも眠ってもらって います。夜間のトイレは睡眠を 重視し本人が目覚めた時に対応 している。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の説明書は個人ファイルに閉 じて職員がいつでも見られるよ うにしている。医師の指示のも と調整出来る薬は状態を見なが ら調整して服薬してもらってい る。食前後の服薬がある人は手 前に食前、膳の奥側に食後をセ ットし、錠剤が飲み込めない人 は、粉にして服薬介助・服薬確 認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の得意分野での手伝いや手 仕事を任せて行ってもらってい る。責任感から体力的・精神的 な負担とならないように支援し ている。嗜好品としてお菓子な ど間食の持ち込みがある方には 適時提供している。季節毎の行 事や外出行事を計画して気分転 換や楽しみが増えるようにして いる。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	苑外への散歩は出たい時に出 られるようにしており、必ず付 添いをしています。季節の花が 咲いたり、近隣でのイベントが あれば出来るだけ見に行くよ うにしている。散髪や買物には 希望時に行くようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	トラブルのないよう多額の現金 は持ってもらわないようお願い をしています。自分で管理出来 る方でも1万円以下の現金を持 ってもらおうようにして買物時 には自分で払えるように援助し ている。		



自己評価	外部評価	項 目(西ユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	予めご家族に状況説明をして思う時に電話で話をしてもらっている。家族や子供さんからの手紙や荷物など届いた時には本人がお礼の電話が出来るように対応している。家族などに暑中見舞いや年賀状を一人1枚ずつ出せるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常にいつもの場所にいつもの物があるようにして、戸惑うことのないように配慮しています。季節毎の飾り物やレクで季節の歌を唄ったりして季節が認識できる工夫をしています。室温を一定に保つようにして個々の体温に応じて衣類の調節が出来るように都度声掛けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中はリビングのソファでくつろぎながらテレビを見たり、レクをしたりがほとんどで、ソファで横になりたい方には横になって休めるように配慮しています。午後はベッドで横になりたい方や気分によっては眠りたい方には自室で休めるように対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた物を持ちこんでもらい、自宅での生活の延長のような気分になれるようにしてもらっています。部屋の片づけも職員が勝手にしてしまうのではなく、一緒になって片付ける事で安心感を持ってもらえるように支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自室や共有スペースでの行動は自由に行ってもらっています。洗濯物干し・たたみ・食器洗い・掃除・配膳など個々に合った出来る事してもらっています。各ユニットへの出入りも自由にしてあるので、思うよう行動出来、話をしたい人の所へも行ってもらっている。		

V アウトカム項目( 西ユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所ひまわり苑

作成日 令和2年10月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の方との交流は行事を通して行なってきたが、地域に対して貢献していきたい。	地域密着型施設として支援を受けて機能しているが、これからは地域の中で貢献していく。	川掃除に参加する。(職員)	1年間
2	6	利用者・ご本人及びご家族の本事業所に対する要望や意見(本音)を充分把握できているか不安。	利用者はもちろん、ご家族との信頼関係の構築を行なう。	職員会議やユニット会議で、ご本人やご家族の忌憚のない思いを理解しながらケア検討する。	1年間
3	9	利用者・ご本人及びご家族の本事業所に対する要望や意見(本音)を充分把握できているか不安。	利用者はもちろん、ご家族との信頼関係の構築を行なう。	職員会議やユニット会議で、ご本人やご家族の忌憚のない思いを理解しながらケア検討する。	1年間
4	18	地域の方との交流目的で参加していたサロンの場が、出来ない動作などあって、「行きたくない。」と言われて中止している。	地域の方と交流できる場を模索して、交流できる場所を作る。	行政や地域へ問い合わせ参加できる場を見つけていく。	1年間
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。